

京都府生協連ニュース

<第64回通常総会特集>

2017年8月8日・No.88(通算154号)

京都府生活協同組合連合会

京都市中京区烏丸通二条上る蔭絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階

TEL. 075-251-1551

FAX. 075-251-1555

第64回通常総会開催

～全議案を満場一致で可決～

6月13日(火)、京都府立総合社会福祉会館ハートピア京都で開催



<ご来賓からご祝辞をいただきました>



開会のあいさつをする
上掛 利博会長理事



京都府山田啓二知事代理
危機管理監兼府民生活部 前川 二郎部長(当時)



京都労働者福祉協議会
橋元 信一会長

京都府生協連第64回通常総会報告

6月13日(火)午後1時30分から、京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都で、京都府生活協同組合連合会第64回通常総会を開催しました。総会の代議員総数は44人で、本人出席36人、書面出席8人でした。

来賓および理事・監事・オブザーバーあわせて、77人が参加しました。畑忠男副会長理事による開会宣言のあと、上掛利博会長理事が開会のあいさつをのべ、ご来賓の京都府危機管理監兼府民生活部・前川二郎部長[京都府山田啓二知事代理](当時)、京都労働者福祉協議会・橋元信一会長から、ご祝辞をいただきました。オブザーバーとして、日本生協連関西地連・小川哲氏

はじめ、14人が参加しました。地元選出の国会議員、各関係団体、各生協などから83通の祝電・メッセージがよせられたことを酒向事務局長が紹介しました。高取淳専務理事が第1号～第4号議案を提案し、今西静生特定監事(当時)が監査報告をおこないました。代議員・オブザーバーから8件の発言があり、高取淳専務理事が討論のまとめをおこないました。提案した議案のすべてが満場一致の賛成で可決されました。

総会後に第1回の理事会、監事会が開催され、会長理事に上掛利博氏、副会長理事に畑忠男氏、同・中島達弥氏、専務理事に高取淳氏、特定監事に長誠一郎氏が就任しました。



開会宣言をする
畑 忠男副会長理事



議案提案をする
高取 淳専務理事



監査報告をする
今西 静生特定監事(当時)

■祝電・メッセージをお寄せいただいた方々<順不同・敬称略6月13日現在>

衆議院議員自由民主党	田中英之	衆議院議員民進党	泉ケンタ	衆議院議員民進党	山井和則
衆議院議員民進党	北神圭朗	衆議院議員民進党	前原誠司	衆議院議員日本共産党	こくた恵二
参議院議員日本共産党	井上さとし	参議院議員日本共産党	倉林明子	京都市長	門川大作
京都府議会議長	村田正治	京都府社会福祉協議会会長	位高光司	京都市社会福祉協議会会長	村井信夫
京都商工会議所会頭	立石義雄	京都府農業協同組合中央会会長	中川泰宏	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西川順之輔
京都府森林組合連合会代表理事会長	青合幹夫	京都原水爆被災者懇談会世話人代表	花垣ルミ		
京都「被爆2世・3世の会」世話人代表	平信行	原水爆禁止京都協議会代表理事	渡邊賢治		

■全議案が満場一致で可決されました

議 案	賛成	反対	保留	合計
第1号議案 2016年度活動報告・決算関係書類等承認の件 2016年度監査報告	43	0	0	43
第2号議案 2017年度活動方針・活動計画および予算決定の件	43	0	0	43
第3号議案 2017年度役員選任の件	43	0	0	43
第4号議案 2017年度役員報酬決定の件	43	0	0	43

※出席代議員は合計44人（本人出席36 書面出席8）、うち議長1人は採決に参加せず。

【京都府生協連 2017年度役員体制】（6月18日現在） *新任

＜会長理事＞ 上掛 利博（員外）	川村 幸子（京都生協副理事長） 河野 直（京都生協常務理事）*
＜副会長理事＞ 畑 忠男（京都生協理事長） 中島 達弥（京都大学生協専務理事）*	坂本真有美（生協コープ自然派京都理事長） 杉本 頼正（京都高齢者生協くらしコープ副理事長） 田中 とみ子（乙訓医療生協専務理事）* 谷口 一宏（龍谷大学生協専務理事）* 堂本 吉次（やましろ健康医療生協専務理事） 大塚 正文（京都橘学園生協専務理事）* 山川 修司（全京都勤労者共済生協専務理事）
＜専務理事＞ 高取 淳（員外）	
＜常任理事＞ 本多 浩（京都府庁生協専務理事） 中森 一朗（大学生協関西西北陸事業連合専務理事）* 大森 俊次（京都医療生協専務理事）*	＜特定監事＞ 長 誠一郎（乙訓医療生協監事）*
＜理 事＞ 岡田 照雄（京都市民共済生協専務理事） 上総紫香子（生協生活クラブ京都エル・コープ副理事長）	＜監 事＞ 石井 聡（京都生協常勤監事） 鯉迫 裕子（同志社生協専務理事）

【理事・監事を退任されたみなさん】（順不同）

＜理 事＞小野 留美子さん・酒井 克彦さん・鯉江 賢光さん・林 章司さん

＜特定監事＞今西 静生さん

【事務局】

事務局長 酒向 直之

事務局担当 川端 浩子

事務局担当 岡本 朋子

会 員 生 協

京都生活協同組合
生活協同組合コープ自然派京都
生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ
京都大学生協同組合
同志社生活協同組合
立命館生活協同組合
龍谷大学生協同組合
京都府立医科大学府立大学生協同組合
京都工芸繊維大学生協同組合
京都教育大学生協同組合

京都橘学園生活協同組合
京都経済短期大学生協同組合
京都府庁生活協同組合
京都医療生活協同組合
やましろ健康医療生活協同組合
乙訓医療生活協同組合
全京都勤労者共済生活協同組合
京都市民共済生活協同組合
京都高齢者生活協同組合くらしコープ
大学生協同組合関西西北陸事業連合

■8 人の代議員・オブザーバーから発言がありました。発言要旨を以下に掲載します。

1. 京都生活協同組合 杉山 康代 代議員

「子育て応援のとりのくみ」



2016年に「女性活躍推進法」が施行され、働く女性が生き生きと活躍できることが重要視される一方で、子育て層が地域で孤立するなどの問題も起こっている。京都生協は第9次中計の中で、組合員のくらしに生涯役立ち続けるために重点的に

取り組む方向性を明らかにした。その1つである「子育て世代の応援のとりのくみ」について紹介する。①宅配事業では、妊娠中から満2歳までの個配手数料を無料に

するサポート割引を行い、6,170人の登録があった。②ホームページでは、「子育て応援サイト」を開設した。離乳食やアレルギー対応のおやつレシピ、育児イベントや医療機関等に関する地域の情報提供を行った。③赤ちゃんお誕生プレゼントには、1,781人の応募があった。④「コープ子育てひろば」は、京丹後市に加え、中京区、伏見区で開始。のべ841人が参加。4月には、右京区でも開始。京都府南部にも広げる。⑤「0歳児からの音楽会」には200人の親子が参加し、身近なクラシック音楽を楽しむことができた。他の地域でも開催を計画している。これからも、子育て世代のみなさんに、「生協があつて助かった」「参加して良かった」と思っただけのように子育て世代を応援する様々な取り組みを進めたい。

2. 生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ 池田あゆみ 代議員

「生活クラブの甲状腺検査活動」



生活クラブの甲状腺検査活動にたずさわっている。2011年に起こった福島第一原子力発電所の事故による被害にあった「福島の子どもと知る権利を守るための活動」に、生活クラブとして寄り添い一緒に活動していくことになった。

甲状腺検査の目的は、①

市民の知る権利を確保するために、生活クラブふくしまからの支援要請があったこと、②「福島と他地域の比較すること」「全国各地の実態を知ること」「子どもの早期

検診」「脱原発活動につなげること」など、被災者や支援する地域それぞれの当事者としての意識を持つことを目的に始まった。2012年から15年までの4年間に甲状腺検査を受けた子どもはのべ2,849人。京都でも30人ほどが受けている。検査活動を通して、廃炉作業員の死亡や汚染防護服の焼却されていることも知ることができた。チェルノブイリの原発事故での罹患率ピークは10年後である事が実証されているので、今後も検査活動を継続していく。これからも政府への政策提案を継続、情報の公開、福島県外の健康検診を求めている。最後に、甲状腺検査活動を通じて、原発周辺地域で被害に遭われた方々の力になれるように、生活クラブの活動を続けていく。

3. 生活協同組合コープ自然派京都 平出美和子 代議員

「2016年度の組合員活動の報告」



「コープ自然派の産直」をテーマに食育活動を取り組んだ。生産者とのたくさん「出会い・語り・知ること」を大切に、1年間を通し取り組んだ。特徴的な取り組みについて紹介する。「京山城屋」との交流では、乾物の勉強会と調理実習をおこなった。乾物は栄養価が高く保存

もきくのでとても便利な食材で、野菜が手に入りにくい時や、冷蔵庫や野菜冷蔵庫に材料が少ないときなどあればとても助かるということがわかった。「パプアニュー

ギニア海産」との交流では、エビの学習会とエビフライの食べ比べをおこなった。天然エビで薬品をいっさい使わず味にもこだわり、手早く冷凍することで品質が保たれているというお話があった。エビフライは無添加のパン粉をつかい調理した。パプアニューギニア海産のエビフライはしっかりエビの食感と味があり、他社のエビフライとは味の違いが歴然だった。無投薬のエビなので殻も揚げていただいた。殻の3分の1は廃棄されるそうなので、ぜひ殻つきのエビを購入し、殻まで食べてごみをへらしてほしいと話された。生産者さんに会うたびに「食べることは生きること」と実感をし、一回一回の食事を大切にしようと思った。2017年度の食育のテーマは「国産・オーガニックをひろげよう」。

4. 全京都勤労者共済生活協同組合 松本 浩 代議員 「全京都勤労者共済生活協同組合(全労済京都府本部)活動報告」



最初に、大雪寒波の対応状況について報告する。全国では火災・自然災害・慶弔の3共済合計で、7,000件弱、共済金額としては18億強のお支払いをした。京都では、雪の重みにより、テラスのフレームが曲がったり、屋根瓦や雨樋の落下などの被害があった。300件を超える共済金の請求があり、くらしの再建に役立つことができた。

全京都共済生活協同組合は、1957年10月5日設立。今年60周年を迎える。設立趣意書には、相互扶助によ

る自主的な福祉共済活動を積極化して、実質賃金の向上をはかる」目的でを立ち上げたことが書かれている。「感謝・絆・躍進」を記念事業のテーマにして取り組んでいる。組合員向けのイベントを紹介する。①劇団俳協による、親子で楽しめるミュージカル「あらしのよるに」の公演。②大人向け企画として、ベニシア・スタンリー・スミスさんの記念講演会。③Jリーグ京都サンガの一日親子向けサッカー教室を予定。他にも、職域での表彰規程を設けた推進活動、地域窓口への来場者に記念品を進呈するキャンペーンなどを行っている。最後に、2016年12月1日に四条烏丸駅近くに共済ショップ四条烏丸をオープンした。オフィス街ということで営業時間は、10時30分から18時30分で相談活動を行っている。

5. 京都医療生活協同組合 清水 泰治 代議員 「生協運動と眼科経営をいかに結びつけるかの課題に向けた活動」



今年創立67年を迎える。その母体である中野眼科は開設80周年となる。日本の医療環境、医業経営の状況は大きく変化を遂げてきた。近年の医療費削減策は患者の受診抑制となって医業経営に厳しい結果をもたらしている。創立理念として、「豊かな長寿社会に向けて、協同を基調に経営改革をすすめ、信頼される眼科を」掲げている。厳しさが増す医療情勢の下で、「協同を基調に」という生協方針と経営改善をどう結びつけなければいいかという難しい課題に直面し

ている。生協運動のあるべき組織強化(組合員拡大・教育情報事業など)や組合員サービス(健康・文化事業など)の向上という面で、眼科診療の枠内では限界も感じる。他方、「コンタクトレンズの処方管理は医療」であるという立場から、安心・安全なコンタクトレンズの供給にも組合員サービスの一環として取り組んできた。激しさを増した業界での競合問題やネット・通販・量販店での格安レンズ(カラーコンタクト等)の危険性が問題化している。厚生労働省もコンタクトレンズの紹介等については問題視している。眼科医療施設としても安心安全というものを提供していきたい。組合員の立場に立った情報提供などに力を入れながら、生協らしさを全面に押し出して取り組んでいきたい。

6. 京都府庁生活協同組合 小西 重和 代議員 「供給回復に努力し、存在意義ある活動を」



2016年度は、剰余金で1,200万円の黒字で終わることができた。剰余金処分は、法定準備金として、1,000万円を積んだ。しかし、供給高の減少傾向に歯止めがかかっておらず、前年差で2,700万円の減少。2009年以降、7

年間で3億円強減少し、6億円を切るところまできている。人件費、物件費の削減と事業外収入の確保で何とか黒字を確保した構造である。組合員拡大では、府職員の新規採用者の研修期間中の加入率が76%。地方機関の職員加入率についても74%と高い数値になっており、このかんの努力が表れている。ホームページは、自前で更新ができるようにしたことで、素早くメンテナンス等を行い、事業内容の情報提供等の充実をす

すめている。京都府との関係についても重要である。職員の福利厚生を担っていることのみならず、府民福祉の向上に役立っている団体としての関係を大切にしながら活動を進めたい。昨年の総会でも発言したが、「組合員ニーズに一層応えられる事業を掲げ、府職員

の福利厚生の一翼を担い、食の安心安全・環境・平和・災害復興支援などの生協の理念を大切に、魅力ある事業展開を実現すべく努力」することしかないと考えている。京都府生協連唯一の職域生協としてこんごも存続・発展していけるよう一層努力する。

7. 京都府立医科大学府立大学生協同組合 末廣 恭雄 代議員 「農村体験ツアー」



農村体験ツアーは、毎年秋に、府立医科大学生協食堂のお米を栽培しているエチエ農産（京都丹後市久美浜町）を訪問し、生産者との交流を中心にしたツアー。学生自らツアーの企画を考え、毎年テーマを設け、獲得目標を持って取り組んでいる。今年で、10年目を迎える。

府立の大学なので、府内の地域社会に関心をもつことは、みんな意識している。今年は、1日目は、丹後産こしひかりのおむすびを食べながら、生産

者から、有機栽培や先進的な農業に関してのお話を聞いた。餅つき体験もした。府立大学の先生からは、海岸に座って丹後ジオパークの話聞き、きれいな景色に心が動くということを体験した。2日目は、「ミルク工房」を訪ね、酪農家との交流や「丹後王国」の見学をした。9年間でのべ250人以上参加している。この取組みの気づきから「大学京あられ」等の商品が誕生し、発売している。地域の人と大学をつなぐということは意味あることであり、経営上、十分に教育文化費を使えないなか、継続して取組めるように、日帰りツアーにしたり、市の補助金をうけたりすること等、工夫をして取組めるように努力したい。今年は10年目「丹後ちりめんは生き残れるか」というテーマで議論がはじまっている。

8. 京都高齢者生活協同組合 くらしコープ 石澤 春彦 オブザーバー 「京都ソリデール事業と共同墓事業」



前身である京都高齢者協同組合が2002年に設立してから15年、生協法人の認可をうけて今年で3年になった。当初400人だった組合員も倍の800人となった。事業の中核は、介護事業。京都ソリデール事業（次世代下宿）は、京都府が地域創生の国の資金を利用しながらはじ

めた事業で、高齢者宅などの空き部屋を安い値段で学生などの若者たちに提供し、京都に定住してもらうことを目的にしている。京都府は、10組のマッチングを目

指して開始したが、当初は一組も成立しなかった。私どもの組合員がサロンとして提供していただいた家で、京都工芸繊維大学の学生と一緒に住むことになり、マスコミなどに取り上げられたことで、4組が成立した。すべて、高齢者生協の実績です。協同組合のいいところをいかして組合員同士の互助ですすめたのがよかった。共同墓「平和の風」もおなじく組合員の要求からはじめ、京都の西山の方にできた。24の方が契約。本業も大変ですが、組合員の要求を生かした事業がひとつひとつ手ごたえのあるものになってきていることを感じている。この2つの事業に共通することはそれを通じていろいろな組合員の要求を知る事ができ、次の事業の展開に見通しができたことである。

■高取淳専務理事がまとめをおこないました。

本日は、代議員・オブザーバーから8件の発言があった。それぞれの会員生協のところで組合員の願いに応え、安心してらせる地域・社会づくりへの実現に向けての取組みが伝わる内容だった。昨年の総会で、「誰もが安心してらせる地域・社会をめざして～新・京

都の生協の課題と京都府生協連の役割～」を決定した。本日出された意見をしっかり受け止め、こんごも、「学びと交流」「生協間の協同・連帯」「行政・諸団体との連携」等を強めることで、京都の生協の活動が広がるように、京都府生協連はその役割を發揮していきたい。